令和８年度ミュージアム･パブリックリレーションズ研修

1 研修の趣旨

ミュージアムは文化の結節点として社会の豊かな未来を創造する力を持つ。多様な声が響きあい、新しい発見と創造を生み出す場として機能するためには、文化の価値と魅力を広く共有し、ミュージアムを取り巻く社会とのより良い関係を構築していくことが求められる。本研修は、パブリックリレーションズ（ＰＲ）を実現するための必要な知識・技術を習得し、その資質を向上させることで、これからに期待されるミュージアム活動を牽引していく人材を育成する。

2 研修の概要

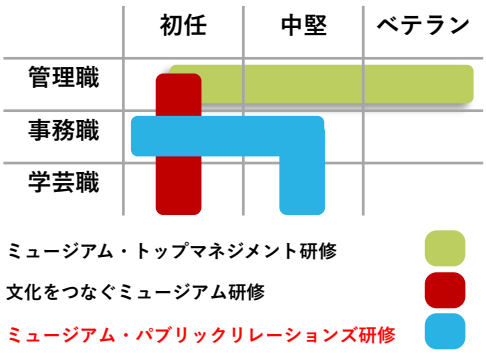
主催者　文化庁

対象者　博物館に勤務する学芸員等専門職員

定　員　①現地参加（50人）
②講義科目配信視聴（500人/部分受講可）

実施期間　令和8年12月8日～12月11日（4日間）

実施場所　東京・湯島ファーストビル1F（地下鉄千代田線：湯島駅より徒歩5分）
及び配信の併用
※「施設見学」「グループ討議」の配信は無し。



3 日程とカリキュラム

【カリキュラムの内容については一部仮のものが含まれます】

12月8日(火)

09:45～10:00	**開講式・ガイダンス**
基調講演 10:00～11:00	**ミュージアムは何を語っているのか ― メディアとしての博物館** ミュージアムは展示や広報物だけでなく、コレクションや空間、活動そのものを通じて社会にメッセージを発信している。本講義では、博物館を「メディア」として捉え直し、ミュージアムが伝える価値や物語、社会との関係性について考える。 関西大学 社会学部社会学科メディア専攻 教授　村田 麻里子
11:15～12:15	**編集力でミュージアムと社会をつなぐ** どれほど優れた活動も、相手に届かなければ社会との関係は生まれない。本講義では、文化資源の価値を社会と共有するために必要な「編集」の視点を取り上げる。学術的な専門性を伝わる形へ翻訳する方法や、多様な人々との接点を作っていく考え方を知る。 刀研機構業務執行理事／甘橘山美術館開館準備室室長　橋本 麻理
	昼休憩
13:30～14:30	**欧州の美術館における戦略的価値発信** 欧州では、美術館が単なる展示の場を超え、社会に対してその価値や魅力を戦略的に発信することで、文化政策や地域社会に大きな影響を与えてきた。その戦略と「効果」について、欧州における美術館と社会との関係性からひも解いていく。 前 NTV ヨーロッパ 経営取締役社長　布施 優子
14:45～15:45	**博物館のSNS発信とその実践** SNSはミュージアムと利用者をつなぐ重要なコミュニケーションツールとなっている。本講義では、博物館におけるSNS発信の実践をもとに、情報を届けるだけでなく、共感や参加を生み出しながら利用者との関係を築いていくための考え方と手法について学ぶ。 日テレWandsビジネスディベロップメントDiv.リーダー　藤本 星香
グループ討議 16:00～17:00	**博物館の特別プログラムを考える** 博物館で行われるユニークな体験プログラムやイベントは、誰にどんな価値を提供しているのか。ディスカッションのなかで考える。 文化庁博物館振興室

令和８年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修

12月9日(水)

施設見学
9:45～12:00

【東京都美術館】「とびラボ」の仕組みから考える活動のはじめ方

美術館と大学と市民が連携する「とびらプロジェクト」を題材にミュージアムで背景の異なる人同士が協働するためのプロセスを体験する。

東京都美術館　学芸員　河野 佑美
東京藝術大学　芸術未来研究場 特任准教授　小牟田 悠介

13:30～14:30

ミュージアムのコミュニケーションデザイン

社会との関係性のなかでミュージアムの価値を再発見し、発信と交流により利用者や社会の認識を変えるコミュニケーションデザインについて実践的に解説する。

キャンドルウィック株式会社 代表取締役社長　シルベスタ典子

14:45～15:45

ミュージアム的思考を街に広げる

ミュージアムの役割は施設の中だけにとどまらない。コレクションや地域の文化資源を活かしながら、市民やファンとともに文化を体験し、共有する場をまちの中に広げていく実践について考えていく。

高畠華宵大正ロマン館 館長　高畠 麻子

16:00～17:00

ミュージアム評価のさまざまな視点 － 評価はなんのために行うのか

評価学の基本的な概念を概観した上で、ミュージアムの使命の重要性を確認するとともに、様々な評価手法をみていく。併せて、グループ討論で検討する「ロジックモデル」について学ぶ。

合同会社 エ・バリュー 共同代表　佐々木 亨

12月10日(木)

グループ討議
10:00～14:30

ミュージアムのロジックモデル― 作成

参加者が勤務するミュージアムを事例にして、「ロジックモデル」をワークショップ形式で作成し、発表する。作成の際には、当該ミュージアムの基本情報（使命・理念・ビジョン、最新の事業計画および評価報告書など）をグループ内で共有する。

佐々木 亨、文化庁博物館振興室

グループ討議
15:00～17:00

ミュージアムのロジックモデル― 発表

同上

同上

12月11日(金)

10:00～11:00

巻き込むミュージアム戦略 ― 課題先進地から考える文化資源の活かし方 ―

人口減少や高齢化が進む地域において、文化財や博物館の価値をどのように地域社会と共有し、多様な主体を巻き込みながら活動を展開していくのか。飛騨市における実践をもとに、地域住民や民間事業者との協働、首長や議会、庁内との合意形成を通じた文化資源の活用について学ぶ。

飛騨市教育委員会 文化振興課 課長　三好 清超

11:15～12:15

小規模機動的なミュージアム経営

財団立の博物館において、入館無料を貫く経営を支えるためのファンドレイジング戦略とは。
ビル・ゲイツが訪れ、SNSの住人から支持される展示や広報、グッズ展開など多様なPR活動を知る。

目黒寄生虫館　事務長　亀谷 誓一

昼休憩

13:30～14:30

ミュージアムへの贈り物

ミュージアムのコレクションを充実し、その活動を充実させていく寄贈や遺贈、ミュージアムを取り巻く人々との信頼を得ていくためのコミュニケーションや必要な知識について学ぶ。

文化庁 企画調整課 建築資料調査官　山口 俊浩

14:45～15:45

博物館の価値を社会に開く、共に創る

文化政策の変遷と現在地点について解説するとともに、「これからの博物館」がどのように社会に開かれ、地域の豊かさに寄与していくのか、文化政策のなかの方向性を示す。博物館が未来に向けて果たすべき役割と、その活動の在り方を考える。

文化庁 参事官（文化拠点担当）付 博物館支援調査官　中尾 智行

16:00～17:00

まとめ
質疑応答、全体討議

参加者全員及び文化庁職員による質疑応答。

令和８年度ミュージアム･パブリックリレーションズ研修

4 応募フォーム

締切：12月1日（火）昼の12時迄

https://forms.gle/QyWqpZQtUL2cUtqP6

5 応募に関する問い合わせ

令和８年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修 運営事務局
株式会社シード・プランニング内 e-mail：b_museum@seedplanning.co.jp

6 文化庁による本件担当

参事官（文化拠点担当）付博物館振興室
TEL 03-5253-4111

7 実施場所案内



［ビル名］ 湯島ファーストビル
［所在地］ 〒113-0034
東京都文京区湯島3-19-11
［交　通］ 湯島駅 徒歩5分
末広町駅 徒歩5分
上野広小路駅 徒歩7分
上野御徒町駅 徒歩8分
御徒町駅 徒歩8分
仲御徒町駅 徒歩10分

